

体験型海洋観光の普及および教育効果と沿岸観光マネジメント

研究の概要

海洋立国を標榜する日本ではあるが観光の視点からみるとその実態は他の海洋立国に比べて遅れていると言われている。大型客船誘致等には着目しているものの、他の海洋立国で見られる体験型や教育型アクティビティへの関心は高くない。海洋アクティビティを核とした海洋観光(マリンツーリズム)は単なるレジャーの要素だけでなく、自然環境への対応(リスクマネジメントやクライシスマネジメント)スキルの向上、また非認知能力の向上やチームビルディングスキル、リーダーシップといった教育的効果が期待される。むしろ、そうした効果を狙ったプログラムが海外では盛んに実施されている。

現在は、帆船や沿岸アクティビティを活用した体験型海洋観光を通じて海洋観光・海洋(冒険)教育・海洋環境の各側面においてどのような効果がみられるかを測定している。

研究の特徴

海洋アクティビティを通じて、海洋環境・帆船航海体験を核とした教育(チームビルディング力の涵養、リーダーシップ・フォロワーシップ教育)・海洋観光プログラム開発を三位一体として捉えた研究を実施しています。

これまでのところ、効果としては、

- ①非認知能力の向上、②メタ認知能力の向上、③環境への関心の高まり、④リラククス効果が測定されています。

これを踏まえて以下の様な課題に取り組むことができます。

1. 体験航海を通じた人材育成プログラムの開発と実施(認知能力向上、チームワーク形成など)
2. 沿岸部を活用したアクティビティプログラム開発
3. 海洋施設のマネジメント



行政・経済界・地域と連携した取り組み例

- ・帆船 BLUE OCEAN みらいへと連携したプログラム開発と実施、効果測定
- ・和歌山マリーナ運営コンソーシアムによるアクティビティプログラム開発への参画

研究者からのメッセージ

海外では体験型海洋観光への参加者は多く、その経済効果も小さくありません。海洋イベント・競技等での広告効果や集客効果も日本の数倍になります。それは観衆自身に活動経験がありその効果を認知しているからです。

研究分野 : 人的資源管理、人的資源開発、海洋観光

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・竹林 明

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp